

もう一つの崖線～布田崖線～

1月28日、東京にしてはめずらしいくらい寒い日が続く、この日の最高気温も5度ちよつとという厳寒。22日に降った雪も残る中、雑木林保全団体のメンバーが中心となって布田崖線歩きを行いました。

今でも斜面地に多くの緑が残る国分寺崖線はカニ山など市民に親しまれる場所として割合多くの方に知られていると思いますが、布田崖線は高低差が少なかったためか、ほぼ住宅で覆われ、その存在に気付く人も少ないのではないのでしょうか。

布田崖線も古多摩川が侵食した跡で、立川付近から調布と粕江との境まで続く崖です。お隣の府中ではこれを府中崖線と呼び、府中市内では比較的緑が残されていることから景観形成推進地区として市民団体と共に保全にも力を入れているようです。

調布市内でも凸凹山児童公園の隣で市民が保全する雑木林があり、東に位置する若宮八幡宮と共に緑のスポットとなっています。その他、下布田遺跡にあるへび山と言われている場所にも雑木林が残されています。しかし崖線樹林を活かした広い庭の住宅が集合住宅に変わるなど厳しい状況も伺えます。下記は当日のルート報告です。



1月28日雪の残る当日



飛田給駅9時半出発、品川道を渡り崖線の階段を下りてゴルフ練習場前へ。ほんの少し樹林が残る左崖部分の先はコンクリートの擁壁で固められ、戸建て住宅が並ぶ。

しばらく歩くと突然府中用水が顔を出す。ここには昭和50年代頃まで水車があったことから水車橋と言われる所。その用水沿いに西部地域センターへの細い道を少し登ると布田崖線の上に出たことが分かる。用水は見えなくなったが右側の住宅の合間からときおり遠くの山並みが見える。

少し行くと右に降りる階段が

現れる。ここが凸凹山児童公園の西端になる。「凸凹森の会」が保全している雑木林を見学。

そこからお向かいの若宮八幡宮の南崖下に流れる府中用水と並行に進み、左へ折れると調布病院の崖下に出るが、一部昔からの丸石が積まれている崖を見ることが出来る。



3月25日石積の崖線

崖を登って鶴川街道を渡ったあとは稲荷橋近くで市が取得した緑地を金網越しに見ることが出来る。いなり橋児童遊園横の府中用水では川底から水が湧いているのが見える。ここから府中用水はアンジェを抜け多摩川方面へと流れるが、イベント当日はそのまま崖沿いに歩いた。

崖下に位置する郷土博物館に寄り、昔の調布の地図や発掘品を見学。そこから布田小を通り、崖下に残る大きなクヌギ（以前は田んぼだった所の脇）を見て、下布田遺跡公園（通称へびヤマ）南を通る。



3月25日畑脇のクヌギ



へびイチゴとオオイヌノフグリ



ムラサキバナとスノーフレック園芸品種が咲く壁際



フキノトウはすっかり花になってしまった

道をはさんだ東側の若宮八幡宮では、この日はサクラが満開間近。期待していたニリンソウ群落の花にはもう少しだった。

その先は崖上の道をたどり、羽毛下橋（ハケシタバシ）へ出る。崖線の地形名は昔から各地でハケと呼ばれる。ここは根川と呼ばれる用水も流れていたところで、平成3年にせせらぎの散歩道として整備されたが、残念ながら現在水の流れは無い。ここで12時、解散。

3月25日、改めて凸凹山を訪れた。崖線歩きをした日とはうって変わって春一杯の穏やかな景色。「凸凹森の会」の活動日とあつて、次回のイベントに向けて竹林の整理の真っ最中。フキやノビルが春らしい若草色。

花の履歴書④8

戸部英貞 (絵・文)

ソメイヨシノ (染井吉野) バラ科



Cerasus x yedoensis

紀伊半島南部に群生するサクラが国内の野生種としてオシマザクラ(1915)以来100年ぶりの新種として判明し、クマノザクラ(熊野桜)と命名された。結果日本に自生するサクラは基本種11種とその変種、種間雑種となった。

サクラは種間雑種が出来易く、同じ地域に2種以上自生している場所では自然交雑が行われ、これからの新しい品種が誕生することが期待される。

栽培品種については、室町時代以降野生種を基に品種改良が行われ、現在登録されている品種だけでも600品種以上あり、無名の品種も数多い。

山に自生しているサクラを「山桜」、栽培されているものを「里桜」と呼んでいるが、植物学的には花が大きく葉によい香りのクマリンが含まれているオシマザクラの特徴が見られるものを「里桜」としている。

ソメイヨシノはオシマザクラとエドヒガンの種間雑種で、江戸時代末期、江戸郊外の染井村(現在の東京都豊島区駒込)の植木屋から大和の吉野に因んで「吉野桜」として売り出されたが、大和吉野山のサクラと混同を避けるため、1900年に現在の「染井吉野」の名に変更された。

このサクラはヤマザクラと異なり、葉が展

開する前に花が満開となるため、沖縄(注)を除く全国に植えられ、日本中に植えられている桜の8割は、「染井吉野」と言われているが、歴史上有名な豊臣秀吉の「醍醐の花見」の桜、奈良の吉野山を彩る桜もヤマザクラだ。

ソメイヨシノは自家不和合性が強く、自家受粉では結実し難く、現在各地に植えられているサクラやアメリカに贈られたワシントンのサクラもすべて接ぎ木によるクローン桜である。

自家受粉による種子は不稔性で結実することはないが、ソメイヨシノ以外のサクラとの間での交配は可能で1912年に贈られたワシントンのソメイヨシノとアメリカの別種のサクラが交雑した実生から「Yakobono」と呼ばれる品種が誕生し、1965年都立神代植物公園に逆輸入され、接ぎ木で育てている中に、特徴の異なる花を咲かせるものがあり、これを新しい品種として登録されたのがジンダイアケボノ(神代曙)である。

※サクラが冬眠から目覚め、花を咲かせるには、冬の寒さが必要(休眠打破)で、冬の温かい沖縄地方では休眠を打破することが出来ない。

開する前に花が満開となるため、沖縄(注)を除く全国に植えられ、日本中に植えられている桜の8割は、「染井吉野」と言われているが、歴史上有名な豊臣秀吉の「醍醐の花見」の桜、奈良の吉野山を彩る桜もヤマザクラだ。

自家受粉による種子は不稔性で結実することはないが、ソメイヨシノ以外のサクラとの間での交配は可能で1912年に贈られたワシントンのソメイヨシノとアメリカの別種のサクラが交雑した実生から「Yakobono」と呼ばれる品種が誕生し、1965年都立神代植物公園に逆輸入され、接ぎ木で育てている中に、特徴の異なる花を咲かせるものがあり、これを新しい品種として登録されたのがジンダイアケボノ(神代曙)である。

2017年度 安全講習

11月25日 入間地域福祉センター・若葉町3丁目第3緑地にて

「切り倒すのではなく、おだやかに寝てもらうんです」。

木を伐る実習での松井講師のこんな言葉が、とても印象的でした。

雑木林連絡会に加わる保全ボランティア団体のメンバーを対象に毎年1回、調布市の事業として行われている安全講習会。2017年度は11月に、松井一郎講師(森づくりフォーラム理事)



竹竿を使って高い位置にロープを掛ける

保全作業では、密生しすぎた木や枯木などを伐る必要が生じますが、最もリスクの高い作業のひとつです。倒す方向をコントロールするためのロープの掛け方や結び方、倒す方向を決めた後の鋸による「受け口」「追い口」のつくり方などを体験。とくに「これから何をするか」を声に出して全員にはっきり伝えることの大切さが強調されました。この実習の中で講師が言われたのが、冒頭の「(木に)おだやかに寝てもらってください」。



倒す方向を決め、鋸で「受け口」の切れ込みをつくる

れば初心者に経験やスキルを伝えることができるか」を講習のポイントに。毎年受講しているメンバーからも「安全講習は繰り返しが肝要。毎年、新しい発見もある」と積極的な感想が語られました。

(大村哲夫)

午後は緑地での実際の作業を通じて、「安全」を学びました。まず2班に分かれてリーダーを決め、林床のアスマネザサを鎌で刈る実習。続いて、高さ7〜8mほどの木を伐採。樹林の

※昨年度の講習会ですが、紙面の都合で今年度に掲載させていただきました。

入間・樹林の会

1月21日(日)晴れ参加者10名

今年初めての活動、安全祈願後、ゴミ拾い・通路整備をして恒例の懇親会を行った。



2月18日(日)晴れ参加者12名

1月から延期した植生調査を全員で行った。プチ違いは①ムラサキケマン・ヤブニンジン・セントウソウ、②タブとマテバシイ、

2月24日(日)晴れ
こども野鳥観察会
2世帯6人の参加。
13種の野鳥を観察確認した。



3月18日(日)晴れ参加者10名
新たに取得した区域で初めて作業した。竹を10本ほど切り、やぶ化したサネカズラ・シユロを伐採した。トライアル参加者も竹をのこぎりで引く作業や伐採をしたが、見通しがよくなりすっきりして満足していた。竹は3mと1.5mの長さの切り粗朶柵用加工して一部用いた。花はツバキ・コブシ・ヒイラギナンテン。(安部)



カニ山の会

1月13日(土)晴れ参加者16名

久しぶりに全員勢ぞろい。お神酒用に竹の入れ物をつくり、落ち葉かきのあとは山の神様に一年の無事を祈る。その後新年の懇親会。



2月10日(土)晴れ参加者9名

20代という若い方が体験参加。東樹林の落ち葉かきの続きと枝おろしやササ刈りを行った。落ち葉かきをしながらシユンランの株元を見ると小さな花芽らしきものが見えていた。春が待たれる。

3月10日(土)晴れ参加者11名

1月22日の雪で折れた枝やイチョウの剪定枝を使って階段の補修をした。階段の形状に合わせ斜面を削り、設置した木の下側に杭を打ち込み踏み面を整理して完成。下段を中心にササ刈りも行った。東樹林東(新たな借用地)を下見したところ、北側と東側は刈払いがされたようだった。少し小さいがフキノトウが顔をだし、シユンランも咲き始めている。(活動報告より)



若葉緑地の会

1月14日(日)晴れ参加者7名

「今年は地域の子どもたちとのイベントを春にも」と新年の抱負を話し合った後、崖線下で落葉かき。多摩に雪が降る旧正月頃までは堆肥用の落葉を集めた、という古老



の話思い出していたら、22日に大雪。重い雪で木々の枝が垂れ下がった。第3緑地ではムラサキシキブの太い枝が折れた。

2月11日(日)晴れ参加者6名

大雪の写真に写っている、ミズキの枝が伸び過ぎ、青空広場の日照に影響するので、冬のうちに剪定した。



3月11日(日)くもり参加者6名

近年、シャガが目立って増えた大坂側入口で、アズマネザサを刈り、剪定枝の山を移動。昨春以上の大きな群落が、4月には見られるはず。青空広場でこの春一番のタチツボスミレ。(大村)



若葉の森3・1会

12月3日(日)快晴参加者8名

紅葉が美しい初冬の日。第1緑地では、中央通路の横木を補強。第1・第2緑地間の通路補強杭打ち。第2緑地では、シユロ掘り起し、竹伐採、境地柵補強等、全体の整備作業を継続。六別坂と緑地内通路を落葉掻きして2つ目の落葉溜へ。緑地全体のごみ拾い。



2月4日(日)晴れ参加者7名

1月の作業はお休み。直前の2度の大雪で第2緑地西側の竹が隣地に倒れこんだ。残雪の中、隣地に近い竹を8本伐採。その竹材を用いて第1緑地コンポスト柵を補強(竹柵)。六別坂落葉掻き、ごみ拾い。



3月4日(日)快晴参加者8名

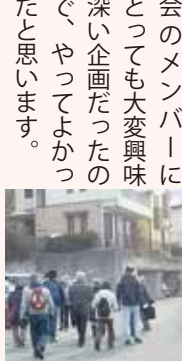
第1緑地では、先月に続き竹材でコンポスト柵と落葉溜めを補修。第2緑地ではキンラン・ギンラン開花に備えて広範囲にササ刈り。六別坂落葉掻き、ごみ拾い。



山田森の会

1月28日(日)曇り参加者9名

布田崖線ウォークのために、事前にルートを歩いたり、マップを作ったりと、初めての事に挑戦し、多くの貴重な経験ができました。会のメンバーにとっても大変興味深い企画だったので、やってよかったと思います。



2月25日(日)晴れ参加者6名

ウメが満開で良い香りを漂わせていました。1月の大雪のせいか、樹林の中に折れた枝が沢山落ちていたもので、拾い集めて片付けました。西側の入り口付近には、相変わらず投げ込まれたゴミも多く、この日は清掃中心に。



3月25日(日)晴れ参加者6名

来月のタケノコ掘りのために竹林の整備をしました。一昨年コマ打ちしたほど木からシイタケが収穫できました。(石原)



深大寺弁天池のかいぼり



2月17日、深大寺の弁天池で始
めてのかいぼりがありました。湧
き水が流れ込むきれいな池ですが、
コイやミシシビアカミミガメな
どが棲みつきの来生物がおびやか
されている状態。環境保全審議会
委員でもある齊藤先生を筆頭に沢
山のボランティアの方が奮闘しま
した。

三鷹市の井の頭公園でもここ数
年、何度かかいぼりが行われ、そ
のおかげで一度は絶滅したかと思
われたイノカシラフラスコモと言
われる絶滅危惧種の藻が6年ぶりに
発芽したとニュースになりました。

さて弁天池ではどうでしょう。
(下記参照) 50匹近い大きなコイは
他の池に移されましたが、先日き
れになった池を見に行ったところ、
なんとアカミミガメらしき亀がノ
ンビリ昼寝をしていました。かい
ぼり中、もぐるなどして難を逃れ
たのでしょうか。それでも少しで
もかつての生態系がよみがえり小
さな魚が増えるのが楽しみです。

かいぼり当日は▼魚類6種(タモロコ、モツ
ゴ、ギンブナ、コイ、メダカ、クロダハゼ)、
▼甲殻類5種(スジエビ、カワリヌマエビ属
の一種、アメリカザリガニ、モクズガニ、ヨ
コエビ目の一種)、▼貝類2種(カワニナ、ヌ
マガイ)、▼昆虫類7種(カワゲラ目の一種
コオニヤンマ、オオヤマトンボ、コシアキト
ンボ、シマアメンボ、ネグロセンブリ、ガガ
ンボ科の一種)の計20種が見つかりました。
その他ミシシビアカミミガメなども確認

ヌマガイ



ヌマガイ

右リストにあるヌ
マガイは、生体が確
認できず、死んだ殻
のみの確認でした。
以前はドブガイA型
と呼ばれていたもの
で、殻が丸みを帯び、殻長が10cm以上
に成長することが特徴です。また、生き
たヌマガイの殻の中にタナゴの仲間が卵
を産み付け、かえった稚魚が貝の中で成
長した後、泳ぎ出てくることで知られて
います。一方で、貝の方も産卵後、幼生(グ
ロキデウム幼生)が、牙状の突起で魚
のヒレにしがみついて移動し、分布を広
げるといふ生態を持っており、両者が共
生関係にあると言われています。

今回、生体が見つからなかったこと
に加え、小型の個体については死んだ殻も
見つかったおらず、かなり昔に子供を残
せない状態で人知れず絶滅したものと考
えられます。かいぼりをしなければ、こ
の殻が見つかることもなく、調布市内に
こんな貝が住んでいたことすらも分から
なかったかと思うと、かいぼりによるこ
の新たな発見はとても貴重なものだとい
感します。(石川)

※実物は深大寺・多摩川自然情報館などに保管

そとろ歩き

環境モニターサポーターが案内

3月11日、今回は神代植物公園から
水生植物園まで主に春先の植物観察を
しながらのそとろ歩きに参加。

最初に訪れた植物多様性センターで
専門の係の方に今咲いている植物を中
心にその植物の変わった魅力などを説
明していただいた。

写真は花の終わったセツブンソウ
(キンポウゲ科)。切れ込みの入った本
葉は双子葉植物と言われる物だが、1
年目に出て来る小さな葉っぱは1枚だ
け。これは普通ユリなどに見られる単
子葉植物の性質だが、こんな変わり者
もいるのです。



その先はボ
ランティアが
植栽から育て
た雑木林を見
学し、湧き水
の流れ落ちる
不動の滝を経
て、水生植物
園へ。水辺ではまだ目にとまるような
植物は出ていなかったが、丸くかた
まったアカガエルの卵を見ることがで
きた。オタマジャクシになった頃また
来たい。(参加者NK)

若葉地区でも春...



ガマガエル君
春のお目覚め

タチツボスミレの原っぱ

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全
活動を行っています。参加希望
者は直接入間地域センターへ。

●4/15(日) 9:30～12:30

植生調査及び保全活動、午後
は入間町2丁目樹林地観察会

●5/20(日) 9:30～12:30

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全
活動を行っています。参加希望
者は野草園横に直接集合。

●4/14(土) 10:00～12:00

●5/12(土) 10:00～15:00

5月は午後からアースデイベ
ントでクラフトを教えます。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目
第3緑地で保全活動を行っていま
す。参加希望者は直接現地へ。

●4/8(日) 9:30～12:00

●5/13(日) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目
第1・2緑地で保全活動を行って
います。参加希望者は直接現地へ。

●4/1(日) 9:30～12:00

●5/6(日) 9:30～12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田崖
線緑地で保全活動を行っています。

●4/22(日) 9:30～12:00

●5/27(日) 9:30～12:00

先5団体の保全活動問合せは
緑と公園課 042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられていま
す。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主
発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、
環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所を募集中です。

◆地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役
所8F)、あくろす2・3F、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多
様性センター、てらのサウルス(国領)、えねこや、みさと屋(布田) おぎ
もと内科クリニックなど。置き場所&応援カンパ募集中です!

◆会員募集! 年会費1000円/サポーター会員500円
郵便振替 00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆